

千葉県社会福祉審議会 答申骨子（素案）

- ・ 長寿化を背景とした急速な高齢化の進行に伴い、高齢者を取り巻く社会環境は、生活リスクを抱える高齢者の増加、地域社会の支え合いの脆弱化など大きく変化するとともに、高齢者の意識も地域住民の助け合いの重視、定年後の地域活動への参加意欲の高まりなど変化している。
- ・ このような変化を踏まえ、千葉県生涯大学校は、高齢者が社会的活動に参加するために必要な支援をすることに重点を置くべきである。
- ・ したがって、今後の大学校の運営においては、高齢者が地域の様々な課題解決に向け、専門性と実践力を身につけ、地域活動の推進者として活躍することができるよう人材の養成を進めていく必要がある。

1 当面の見直し

（県の役割）

- ・ 今後、要援護高齢者が大幅に増加する中、地域福祉の担い手となる人材の養成は重大な課題である。
- ・ しかし、市町村においては、そのための仕組みづくりがまだ十分に進んでいない。
- ・ このため、市町村において自立的に人材養成ができるまで、当分の間、県において公の施設を利用しつつ市町村と連携しながら、地域福祉活動の推進者となる人材を養成する必要がある。

（修業年限・定員）

社会的な人材ニーズの増加に対応するため、より多くの人材を養成することができるよう、修業年限の短縮や定員の見直しを行う必要がある。

（課程・学科）

県・市町村・民間企業等の役割分担を踏まえつつ、地域福祉活動の推進者を養成する視点から、課程・学科を見直す必要がある。

（施設の配置）

課程・学科・定員の見直しに伴い、使用しなくなる施設が生じる場合には、施設の統廃合を検討するとともに、施設の有効活用の観点から、これらの施設の市町村や民間への移譲について検討する必要がある。

2 中長期的な見直し

- ・ 市町村における人材養成のための仕組みづくりの進捗状況を踏まえ、施設及び事業を市町村等へ順次移譲し、県事業としては縮小していくことが望ましい。
- ・ 移譲後の県の役割としては、地域リーダーの能力向上のための研修の実施、情報提供、市町村や社会福祉協議会と連携した広域的な課題解決のための調整等を担うことが期待される。